

様式第2号

視察研修先	岐阜県高山市	氏名	佐藤政人
視察研修項目	観光振興について		
1. 視察目的 高山市の観光振興施策、持続可能な地域づくり基本方針の実践例について調査し、寒河江市の観光政策への応用可能性を検討する。			
2. 主な質問事項と現状要約 ① 高山市では「観光を活用した持続可能な地域づくり方針」に基づき、観光による稼ぐ力の強化、地域資源の有効活用、多様な主体参加による国際観光都市化を推進している。 ② インバウンド誘致については、長い期間取り組んできたブランド戦略、積極的にトップセールスを展開、多言語対応、SNSプロモーションや体験型観光メニューの開発が進められている。 ③ 地域住民への負担軽減や労働力不足対策としては、観光人材(外国人材活用含む)育成、市民協働事業の推進、雇用創出施策が展開されている。 ④ DMO等との協働体制では、民間主導の観光地域づくり組織(DMO)と行政の役割を明確化し、経営戦略・ビジョンを共有(一心同体=ワンチーム)。 ⑤ 財源確保には宿泊税等の新規税収、寄付、協力金等を活用し、市民理解を深める広報活動が進められている。 ⑥ 観光資源の磨き上げや体験型観光については重要視しており、交流人口拡大やブランド強化、多文化共生の理解促進で成果を上げている。今後は二次交通(eバイク)や、教育旅行等も強化していくようだ。 ⑦ 観光データ分析やマーケティング戦略では、高校生によるアンケート調査も実施されており、様々なデータ収集を行い、全体計画に反映されている。 ⑧ 観光と安全・防災体制は、災害情報提供や防犯対策を観光サービスと連動させている。 ⑨ 人材育成や雇用創出の取り組みは、地域通訳ガイドの育成が重要視されており、市民・事業者が協働や外部連携で継続して取り組んでいる。しかし、若者の90%が市外に出てしまう状況で、次世代への繋ぐためにも、出た人が帰って来てもらえる、または2拠点居住など等も考慮した取り組みを実施していくようであった。			
3. 所感 高山市は、富山市から1時間30分、名古屋からでも2時間30分程度かかり、決してアクセスが良いとは言えないが、有名観光地への中継都市として多くの外国			

人を含む観光客が訪れるところである。長年観光振興に取り組んできた成果として、今の盛況があるが、人材不足や、若者の流失が本市以上に深刻のようだ。インバウンド需要については、住民との温度差もあり、課題も多いことがわかった。同じように山に囲まれた本市の立ち位置を探る上でも、良い手本として高山市の観光振興を注視していきたい。

様式第2号

視察研修先	岐阜県下呂市	氏名	佐藤政人
視察研修項目	下呂市地域公共交通計画について		
1. 視察目的 下呂温泉および各観光資源と公共交通網の現状把握、二次交通課題への対応策を調査し、寒河江市の計画策定の参考とする。			
2. 主な質問事項と現状要約 ① 下呂市では「地域公共交通計画」により、定期路線を廃止し市内各地区と観光拠点や市内観光資源を連結する二次交通網(デマンドバス)を整備。 ② 主要課題は、収益アップのためのコンテンツ不足、観光地での飲食やお土産を購入するところが無く、滞在時間が短いことで利用者数の伸び悩んでいる。運営コスト、ルート設定の最適化など、継続的な調査・協議が行われている。今後は高価格帯(ガイドツアーなど)のコンテンツづくりに取り組んでいく。 ③ 観光客の移動ニーズ把握には、DMOによる現地調査・アンケート分析等を活用。 ④ デジタル技術を活用した二次交通として、「COGICOGI SMART! アプリ」を使つてのレンタサイクル事業を実施して利便性向上が図られている。 ⑤ 持続可能性や運営収支改善には協力事業者連携、需要予測、新サービス試行などを検討中。 ⑥ 二次交通と日常交通の役割の分担については、棲み分けは意識していないが、住民優先(65歳以上には福祉パスポートを発行)で運用している。デマンド交通については、土日や民泊利用者が使えないという課題がある。 ⑦ 二次交通(デマンド交通)については、今後観光協会(現DMO)や事業者と連携してE-DMOの枠組みを作り、新交通サービス開発に取り組んでいく。 ⑧ 駅周辺等が交通空白地となっている。また、運転手不足対策では、デマンド交通や過疎地有償運送導入に向けた検討が必要。 ⑨ 下呂温泉中心の観光周遊促進策としては、広域交通連携(リニア中央新幹線駅からの高速交通網の推進)や下呂駅より下呂温泉までの自動運転バスの実証実験などが実施されている。			
3. 所感 下呂市の二次交通体制は、スクールバスの共用化をやめたり、事業者の協力(給与を固定給にすることで、人材確保)を得て運行体制を整備していることが持続可能な交通体系の維持につながっていると感じた。まだまだ課題も多い状況ではあるが、本市の今後の施策に参考となるところは大きいであった。			

様式第2号

視察研修先	岐阜県土岐市	氏名	佐藤政人
視察研修項目	土岐市地域資源活用推進計画について		
1. 視察目的 土岐市の「地域資源活用推進計画」実施状況、美濃焼などの地場産業を活かした地域活性化策・組織連携・人材育成施策を調査し、寒河江市の取り組みの参考とする。			
2. 主な質問事項と計画概要 ① 「観光振興計画」から「地域資源活用計画」への移行は、観光資源の掘り起こしを目的として、持続可能な経済循環、交流人口拡大と地域活力創出を目指した。 ② 昨計画では、計画達成までには届かなかったが、時代の変化に合わせた行動が必要と考え、地域経済循環をいかに実現するかが課題である。 ③ 新計画では「にぎわい」「活力」を中心に、関係・交流人口増加に取り組んでいる。高速道路のインターチェンジが3箇所、プレミアムアウトレットとイオンモールなどの大型商業施設があり、交流人口はコロナ禍前に戻りつつある。 ④ 指標化・評価手法は人口・経済統計、イベント参加者数等や市民満足度調査を活用している。 ⑤ 美濃焼等地場産業活用は、オープンファクトリーやガイドツアー、市内全域を使ったイベントを実施して、観光と経済を結び付け、地域ブランドや交流人口創出に取り組んでいる。 ⑥ 行政、観光協会、団体、事業者の役割を明確化し、分担連携体制を強化している。 ⑦ 次世代担い手育成として、地域連携協定や高校でのカリキュラム、まちづくり団体と連携して、若者向けイベントに参加してもらおう仕組みづくりを実施。また、移住者受け入れ促進施策を継続している。 ⑧ 各種移住定住イベントに積極的に参加し、交流人口増と定住促進策を連動させ地域内循環型経済づくりを目標としている。 ⑨ 成果未達時は、推進委員会で改善・新施策導入の迅速化を図る。 ⑩ 広域連携については、リニア新駅に関連し7市町で連携して取り組んでいる。			
3. 所感 土岐市の課題は、地場産業と観光、商業施設と観光がうまく結びついていない。本市も農業や歴史・文化・食などそれぞれ実力はあるが連携がうまく取れていない。			

また、チェリーランドからの回遊性に問題があると感じているので、土岐市の地域資源活用推進計画は非常に参考となるのではないかと感じています。

今回の一連の視察を通じて、観光振興の奥深さを改めて知るとともに、本市のポテンシャルを發揮できるチャンスだとも感じる事ができました。